

平成28年5月23日～5月29日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について（お知らせ）（平成28年度第2報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月13日（金）から情報提供を開始しました。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. この期間（5月23日～5月29日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数	（168時間中）
1. 石垣島（沖縄県）	27時間
2. 宮古島（沖縄県）	19時間
2. 南大東島（沖縄県）	19時間
4. 久米島（沖縄県）	17時間
5. 西表島（沖縄県）	14時間

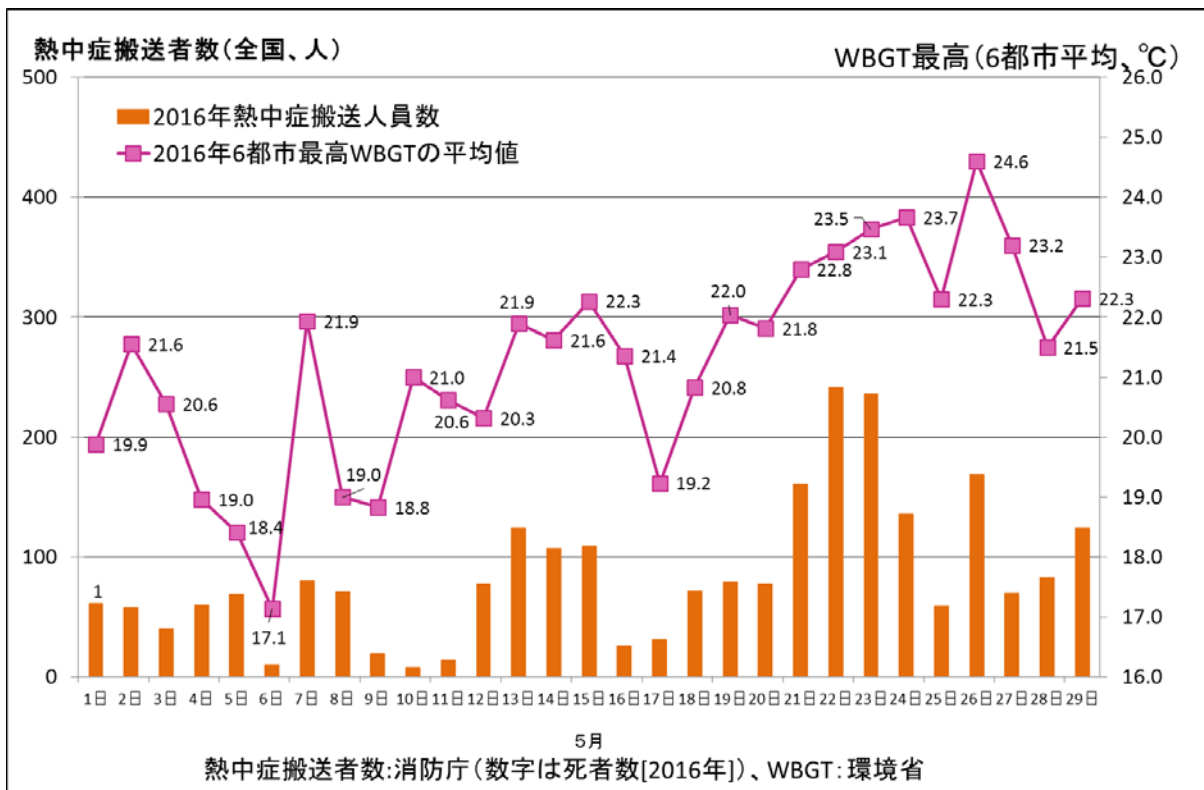
<参考>全国9都市の観測地点（暑さ指数28℃以上）

札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	0時間
名古屋（愛知県）	0時間
大阪（大阪府）	0時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	0時間
鹿児島（鹿児島県）	3時間

- (注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。  
(注2) 暑さ指数31℃以上の時間が、今週は沖縄県内の8か所、鹿児島県沖永良部でありました。また、九州では28℃以上となった地点がありました。なお、暑さ指数31℃以上、28℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、それぞれ、運動は原則中止レベル、厳重警戒レベルです。

### 3. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



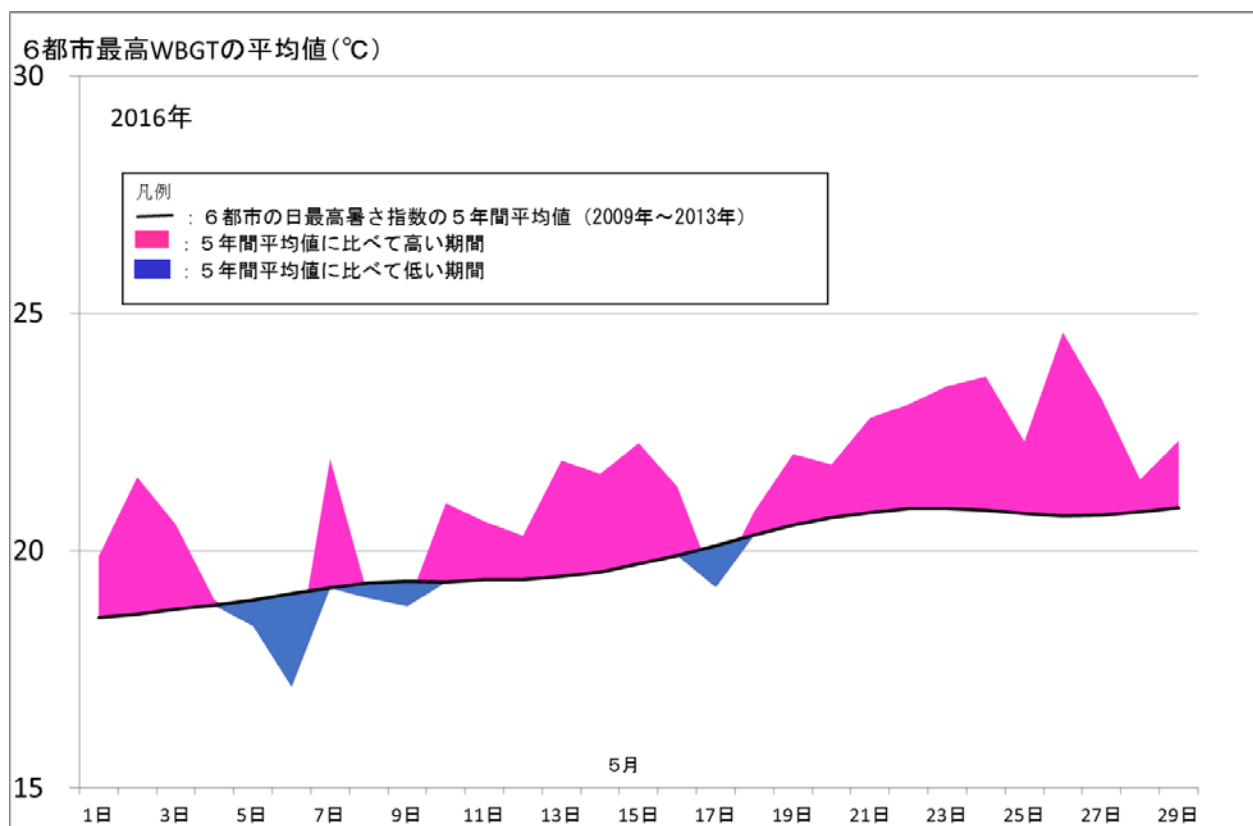
- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、5月23日～29日までの期間は21°C～25°Cでこれまでの期間より高くなっています。熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると、100人を超えてやや多くなり、特に23日には200名を超えています。
- 南西諸島では、熱中症危険度の「危険」を示す31°C以上となる地点や時間が増えました。また、東北南部から西日本にかけては「警戒」に相当する25°C以上の地点が多く現れました。このように、全国的に熱中症に注意が必要な状態になっています。
- 気象庁発表(6月1日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温ともに、北日本から西日本は平年並か平年より低い日が多く、かなり低くなる所もあるでしょう。沖縄・奄美は平年よりかなり高い日が続く見込みです。」とされ、南西諸島では特に熱中症に注意が必要です。
- 本格的な暑さが来る前は、体が暑さに慣れていないため、低い温度でも熱中症が発生しやすくなります。特に高温になる日には、無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

#### 4. 2016年の6都市の日最高暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



この期間の6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、5月初めのころからの高温傾向が維持され一層高くなりました。このグラフからも、例年よりも早めに暑さにさらされていることが分かります。

体が暑さに慣れていないこの時期は、真夏よりも低い温度でも熱中症が発生しやすくなりますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

(注) この項(4項)は、平均を大きく上回る高温が記録されたとき等に追加してお知らせします。